

第1学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年5月24日（木）第5校時

場 所：1年1組 教室

授業者：小里ふみ子

児童数：男11名、女8名

- 1 主題名 わがままと しない
- 2 教材名 「かぼちゃの つる」
- 3 主題構成表

■ 内容項目
〔主たる内容項目〕
A 節度、節制
〔関連性のある内容項目〕
A 善悪の判断、自律、自由と責任

■ねらいの道徳的意味

- ・基本的な生活習慣を身につけ、節度ある生活ができるようになることは、生涯にわたってあらゆる行為の基盤として重要である。
- ・わがままとは、自分の欲望のまま勝手気ままに振る舞うことである。わがままに振る舞うことは、他人に迷惑をかけることが問題にされがちであるが、その本質は自分の生活が乱れることにある。
- ・生活の乱れは、自分本来のよさを十分伸ばしたり発揮できなくなったりすることにもつながる。日々の生活を充実させ、輝いて生きるためには、何より自制心が必要である。

■ねらいから見た児童の実態（意識）

- ・この時期の児童は、友達も多くなり、相手を思いやる行動もできるようになってきているが、まだ自己中心的であったりわがままであったりすることもある。また他人の忠告を素直に聞き入れずに思わぬ失敗をしてしまったり、節度を見失ってわがままな行動をとったりすることもある。それは、人のことを考えない自分本位の行動が、どれほど他者に迷惑をかけているかに想像が及ばないことに原因がある。
- ・適切な指導により、周りの人の様子や気持ちを考え、行き過ぎた行為や自己中心的な行為が問題であることに気づくことはできる。そうした気づきを重ねていくことで、少しずつ自分の気持ちを抑制できるようになる。

■ 要因

- ・自分の欲望のまま行動するとどうなるか、見通しをもって考える力が十分身に付いていない。
- ・節度を守り、節制を心掛けて行動したことによって、自分にとってよい結果が生じたという体験が少ない。

■教材の分析

- ・自分のしたいようにする「かぼちゃ」のわがままな振る舞いが、みつばちやちょうなど周りにも迷惑をかけてしまうことになり、さらには自分自身のつるも切れてしまう。その様子から、わがままな行為がどのような結果をもたらすかについて気づかされる。ここで、善悪の判断ができるかが重要になる。
- ・多くの人が互いを尊重し仲よく過ごすためには、自分一人のわがままな気持ちは抑えなければならないことを考えさせてくれる教材である。教材を読んで、わがままの問題について考えさせる。つまり、自分のやりたいように振る舞うことが、いろいろとトラブルを生み、よく生きたいとする自分自身の生活が乱れるだけでなく、他者の生活も乱すことになることを押さえる。
- ・低学年では、このような具体的な事象を通して理解させ、さらに家庭とも連携しながら、日常生活において、わがままに振る舞うことが多い時や場を発見させ、それを抑える必要があることに気づかせたい。

■ねらい

◎わがままとしないで、はじめのある生活をしようとする。

【理解、判断力】 わがままな振る舞いは、他の人にとって迷惑であるばかりでなく、自分の生活を乱れさせることが分かる。

【心 情】 じめのある生活をしている人は、立派だなあと心が動く。

【実践意欲と態度】 生活の中で、わがままな気持ちを抑え、節度をわきまえて行動しようとする。

■展開の構想

- ・つるを伸ばすのは、かぼちゃにとって気持ちがよいことなのに、そのことでみんなを困らせているというズレに気づかせる。
- ・わがままとしないで生活することは自分にとっても気持ちよいことだということに気づかせる。

■基本発問

○かぼちゃはどうすればよかったのだろう。

◎ぐんぐんつるを伸ばすことができなくなってしまうけれど、かぼちゃはそれでもいいのかな。

■他の教育活動との関連

- ・日常生活で、たとえよいことでもやり過ぎることのないように、自分の心をコントロールすることの大切さを伝え、わがままとしないで行動している姿を認める。（朝の会、帰りの会、毎月の反省など）

4 学習指導過程

★…「評価」につながる見取り

過程	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	<p>1 かぼちやの育ち方について知っていることを話し合う。</p> <p>○かぼちやはどんなふうに大きくなるか知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つるが伸びていく。 ・つるを伸ばすのは、気持ちいいな。 ・もっと伸ばして、おいしいかぼちやになるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化により、つるをどんどん伸ばして生長していく気持ちよさを実感させる。（自分との対話）
展開前段	<p>2 「かぼちやのつる」を読み、初めの感想から、本時話し合いたいことを生み出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちやは、わがままだ。 ・みんなの注意を聞かないからいけない。 ・つるが切れてしまったから、かわいそう。 <p>○かぼちやはどうすればよかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに注意された時、やめればよかった。 ・つるを伸ばしたくても、我慢する。 ・みんなが困らないかをよく考えればよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つるを伸ばすのは、かぼちやにとって気持ちがよいことなのに、そのことでみんなを困らせているというズレに気づかせ、本時の課題を生み出す。（教材との対話） ・役割演技を取り入れ、自分の言葉で話させる。教師と児童、児童同士などで役を交代して行うことで、つるを伸ばすのが楽しいというかぼちやの気持ちや、迷惑だというみんなの気持ちを理解できるようにし、多様な感じ方ができるようにする。（ペア対話）
展開後段	<p>（深めの発問）</p> <p>◎ぐんぐんつるを伸ばすことができなくなってしまうけれど、かぼちやはそれでもいいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくても、人の迷惑になることはやってはいけない。 ・みんなが困るなら、我慢する。 ・自分もその方が気持ちよくつるを伸ばせる。 ・つるも切られない。 ・道と反対の方につるを伸ばすよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなも自分も気持ちよく生活できるようにするために、わがままをしないようにする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・つるを伸ばさず、わがままをしないかぼちやに言ってあげたいことを話してみようと問い返し、わがままをしないで生活することは自分にとっても気持ちよいことだということに気づかせる。（学級対話） ★わがままな気持ちを抑えることの良いさを感じられたか。
終末	<p>3 わがままをしないために、どうしたらいいかプリントに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコやシーソーは、順番を守って使う。 ・自分だけたくさんやらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を提示し、実践への考えや意欲をもちやすくする。（自分との対話） ★わがままをしないように気をつけて生活したいという気持ちが高まったか。